



## 【イエス・キリストを迎える心構え】

聖書本文：マタイの福音書2章1-21節/暗唱聖句：ルカの福音書2章10-11節

説教者：鄭南哲牧師  
(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今日はアドベント待降節の最後の4週目を迎えています。そして来週今年最後の主日礼拝はイエスキリストの降誕に感謝しつつ、礼拝を捧げ祝うクリスマス礼拝として迎えるようとしています。イエス・キリストの降誕は偶然とか突然おとずれたものではありません。予め、神様の御計画の予言の通りに成就されたのです。

旧約聖書の中多くの人物や預言者たちがメシヤについて預言してましたが、特に、イザヤ預言者はイエス様のお生まれの前、B.C. 759年にイエスキリストの降誕についてとても具体的に予言していました。

処女がみごもって、男の子を産む。その子は全世界を治め、救うために苦難をせおっているのを予言しました。例え、**イザヤ書7章14節と9章6-7節**です。

「14それゆえ、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ」/9:6ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。7その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。」

イエスキリストがお生まれになる前の紀元前750年頃、ミカ預言者も、そのメシヤがベツレヘムでお生まれになることまで具体的に予言しました。

**ミカ書5章2節「ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたからわたしのためにイスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている。」**

ところが、このように予め、神様の御計画を具体的に予言の通りに成就させてくださいましたが、それにもかかわらず、イエスを迎える人々の姿はそれぞれでした。メシヤが来られると予言され、時が満ちてついにメシヤが実際イスラエルのベツレヘムでお生まれになりましたが、救い主と出合える素晴らしいチャンス、礼拝出来る特権を見失い、イエスキリストに直接迎え入れ、礼拝することが出来なかった人たちもいました。

なぜ、ファスト初のクリスマスの時に、彼らのために来られ、それとも彼らの近くに救い主が来られたのにも関わらず、なぜ迎え入れることは出来なかったのでしょうか。来週、クリスマスを迎える我々が、我らのために来られた救い主をどう迎えるべきなのか今日の御言葉を通して一緒に学び、備えていきたいと願っております。

## < 1. 我らのため来られた救い主イエスキリストに対する反応 >

イエスが実際お生まれになられた時、迎える人々の姿や反応はそれぞれでした。

今日は2022年前イエスキリストがお生まれになられた時、人々はどのように反応したのでしょうか。

### ①多くの人は無関心でした。

実際そのメシヤがイスラエルの中にお生まれになられた時に、意外と多くの人は関心がありませんでした。天の御使いたちの軍勢が直接現われ、メシアの降誕を直接知らせ(ルカの福音書2章10-11節)ましたが、野原の少数の羊飼いたちだけがそのメッセージを聞き、直接お生まれになったイエスキリストの御前に行ってひれ伏し迎えられました。

**ルカの福音書2章13節では「すると突然、その御使いと一緒におびたしい数の天の軍勢が現われて、神を賛美した。」**みなさん、ここであんまりにも不思議で、注目するところは多くの天の軍勢と御使いの賛美を聞いた人はただ少数の羊飼いででした。静かな夜に響く多くの天の軍勢の御使いが現れ、賛美声は回りにももっとも大きく響き、聞こえたはずでしょう。静かなベツレヘムの町の名か多くの天の軍勢と御使いの歌声の響きがきつとすごかったはずなのに、夜番をしていた羊飼いたちが御声を聞き、救い主がお生まれになられたところへ行って、拝見することが出来ました。当時皇帝アウグストゥスの勅令が出され、ベツレヘムでも住民登録をするために、地元へ帰って来た多くの人が集まっていたため、ヨセフとマリヤが泊まる場所すら見つからないほど多くの人が集まっていたはずでしたが、残念ながら、だれ一人おびたしい数のみ使いの賛美を聞いたり、見た人は一人もいませんでした。

なぜだったのでしょうか。

聖書に詳しく記されていないので、正確にはわかりませんが、大事な一つは、メシヤ、救い主が来られることに無関心だったからでしょう。ベツレヘムの人々は、メシヤのことより、人のことにもっと関心がいったのではないのでしょうか。多くの人が集まったところでおしゃべり、楽しみ、必死にお金を儲けることに、目の前のことに夢中だったかも知れません。自分の事や世間のことの話ばかりにしか傾けてないため、いくら天で、多くの天の軍勢と御使いの歌声を響いても、神からの素晴らしい良い知らせが宣布されても、聞く事ができませんでした。

夜番をしていた羊飼いたちがみ使いとその知らせを聞いたのは、当然一方的な神の恵みであり、神の選択でしたが、

彼らが他の人々より信仰が深かったり、聖書の知識が多くあったとも言えません。しかし、少なくとも、天を見上げられる心、そして、み使いの知らせを聞いた時にお言葉通り信じて、すぐ従った純粋な信仰を持っていたのに間違いありません。なぜ羊飼いたちだけは、各自分の故郷に行かずに、徹夜しながらも、羊の群れを見守っていたのか、多くの神学者たちは、それについて、イエス様の時代、夜番をしていた羊飼という身分は、もっとも貧しく低い自分で、自分の羊を飼っていた人たちではなく、ご主人の羊の群れを代わりに飼い、守る仕事をしながら、生計をしていた人たちだと言われます。 **そんな羊飼いたちが、救い主がお生まれになられたとみ使いの知らせを聞いた時に、彼は、どう反応してましたか。** **主人の羊の群れを、しばらくおきっ放しにしておいても、決心し、覚悟してすぐ急いでベツレヘムのイエス様がお生まれになったところ行ったのです。** **み使いの良き知らせを信じて、すぐ従う信仰！自分がどんな損になるかも知れないけど、覚悟して、決心して、救い主のみもとに近づこうとしていた人々でした！**

その結果、この世に来られた、救い主なる神の御子イエス・キリストを初めて、拝見し、礼拝をささげられる主人公たちとなったのです！羊飼いたちは、みんな貧しかったので、東方の博士らのように、救い主に何か持って捧げる事が出来なかったですが、待ち望んでいた救い主を迎え入れ、信じ、神に感謝をささげたではありませんか。

ベツレヘムの町の人たちだけではなく、エルサレムの人たちも、イスラエルの人々も、救い主を日々待ち望み、信じ、祈る信仰があったならば、いくらでも、ずっと預言されて来た救い主が実際お生まれになられたことを知る事が可能でした！なぜでしょうか。

**神は、数千年ずっとキリストの降誕を具体的に示し、だれでも見られるように、不思議な大きな星を現し、メシヤの御誕を人々に示してくださったのですが、東方の博士たちだけが、ベツレヘムまで来て直接お生まれになられた神の御子イエスキリストを迎え、拝見することができたのです！**

多くのイスラエルの民たちは神と神の御言葉を信じると言いながら、定義的に聖書を読み、聖殿で神に礼拝を捧げていた人々でした。旧約の聖書を通してずっと救い主が来られる預言を聞き、期待感を持ちながらも、実際メシヤが自分達の時代に、それとも自分たちが住んでいるところに、まさか自分たちの時代に来られるなんて思ってもなかったようです。実際彼らの心では無関心でした！

聖書の御言葉が今成就され、救い主がこの地に来られたのにもかかわらず、自分と何の関係もないような姿でした。少しももっと神の御言葉に関心を持って、心からメシヤを待ち望んでいたならば、いくらでも直接お生まれになったメシヤイエスキリストを拝見出来る祝福のチャンスが特別に彼らに訪れていたのにも関わらず、多くの人たちは全然関心がありませんでした！

**ルカの福音書 2 章 25-38 節**によると、神を心から愛し、神の宮で御言葉と祈りに専念し、聖霊の神に敏感で満たされていたシメオンは後で神の御子イエス・キリストと出会った時に、すぐ「**私の目があなたの御救いを見た！(30 節)**」告白しながら、救い主と出会った感謝と感激を賛美しました。結婚7年後、主人がなくなりやもめになって、84歳まで神の宮を離れないで、夜も昼も断食と祈りをもって神に仕えていたアンナも、御子イエスキリストと出会った時に、**38 節**に「**ちょうどそのとき彼女も近寄って来て、神に感謝をささげ、エルサレムの贖いを待ち望んでいたすべての人に、この幼子のことを語った。**」)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！そのような無関心な姿は当時も、今も今日も同じではないでしょうか。クリスマスが近づいて来てもイエスキリストには全然関心がなく、ただクリスマスの日を楽しもうとするだけです。我々のために救い主が来られたのにも関わらず、代わりに物に、まるでクリスマスの主人公かのようにそちらに関心を持っている人たちが多いのです。神様からの最高のクリスマスのプレゼントとして、我々のために、罪赦され、神の救いを得られるように、御子イエスキリストを我らに与えて下さったのにも関わらず、一度も真剣に心をイエスキリストに向けられません。すでに、我らの為に、神の御子が与えられたのにも関わらず、後回しにしたり、今も違うところで真の神々に頼り、拜んでいる大勢の人々が今もいます。

イエス・キリストの御誕の意味は何ですか。有名なドイツの神学者だったカール・バルトという方はこう言いました。御誕の意味は「**神はいと高き所におられ、人間はあまりにも低いところにいる、神の時間は永遠であって、人間の時間は有限であるがゆえ、神と人間は交わることができなかつたため、神はみずから、人間の姿でこの地に来られたのだ。神がすべての人を救うため、下って来られ、人を愛され、友となられたのです。これがまさにイエスキリストの御誕の意味である**」と申しました。それにもかかわらず、人々はこの世に来られたイエスキリストがなぜお生まれになったのか、どんなお方なのか、知ろうとせず、関心もありません！人類歴史上多くの人々が、真剣に聖書を読んで見たら、

だれでも神の御子イエスキリストがどなたなのか、なぜこの世に来られたのか、そのイエスキリストを今もなお迎える事が出来る、本当神の救いの道を教えて下さっていることが出来るように今だに与え、教えて下さっているのです！人は、救われない理由は、神の御言葉なる聖書が、単なる小説かのように、西洋のある宗教の古い本の一冊にすぎぐらいで思い込んで、まったく関心を持つとうとしないため、今も救い主を心に迎え入れることも、神の救いを頂くこともできないのです。

1930年代ヘドン・サンドブロム (Haddon Sundblom) がデザインし、書き出した今のサンタクロースにもっと興奮し、人気を浴びて来ながら、いつの間にか世間の人々はイエスキリストより、コカコーラ社が作り上げたサンタさんが真のクリスマスの主人公であられるように信じ込んで、真の主人公なるイエスキリストにほとんど無関心ではないのが現実でしょう。みなさんも既にご存知のように、クリスマスは単なる西洋の年末祭りみたいな大騒ぎのフェスティバルではありません。メリーは「喜んで」意味で、クリスマスの意味はクリス (キリスト) + マス (礼拝：拝する)、X-mas の X もギリシャ語で「キリストス (Xristos：キリスト)」の意味であるので、この世に我々を救う為にお生まれになったイエスキリストを喜んで迎え入れ礼拝する日であることをその言葉の意味自体が知らせてくれています。

人類の救い主イエスキリストがお生まれになった世の初のクリスマスの時、イスラエルの小さなベツレヘムの町で実際救い主を迎えながら、礼拝を捧げ、またその素晴らしい良き知らせを宣べ伝えた人たちと同じように、まず、2022年が経て今日も、日本で真心と愛と信仰を持って、自身と世界の救い主としてイエスキリストを迎え入れ、信じて感謝と賛美を捧げようではありませんか。2千年が経ても、まだ我らの周りにクリスマスの真の意味を知らず、イエスキリストに無関心な方々、一人にも声かけて神の愛とキリストの恵みと救いを分かち合い、真の神の平和をともに体験し頂ける今年のクリスマスとなりますように主イエスキリストの御名によって祝福を祈ります。

## ②救い主イエスキリストの御誕を知識でしか知らなかった人々もいました。(本文 4-6 節)

「4 王は民の祭司長たち、律法学者たちをみな集め、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。5 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれています。6 ユダの地、ベツレヘムよ、あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。あなたから治める者が出て、わたしの民イスラエルを牧するからである。」

当時エルサレムでは祭司長たち、律法宗教指導者たちなど多くの宗教指導者や学者たちがいました。彼らは一生涯旧約の預言書を研究し、民に教えたり、暗記するまでもしていた人たちです。彼らは、いつかはこの地に神の御子なるメシヤが予言の通り、お生まれになると、その場所まで正確に知っていたのにも関わらず、彼らの中、誰一人そのベツレヘムの町へ行って、直接預言の通りにお生まれになったメシヤを迎え入れた人は一人もいませんでした！みなさん、とってもショックではありませんか。なぜ、彼らはイスラエルのだれより、聖書を大事にし、研究し、定期的に読みながら、多くの聖書の知識を持って民に教えたり、導いた人たちだったのにも関わらず、御子を拝見したり、受け入れることが出来なかったのでしょうか！みなさんも、ご存じのように、後で、最後までその御子イエスキリストを信じるか、むしろ、自分たちの既得権や立場を守るために、絶えずイエスキリストを殺そうとした者たちが彼らだったのではありませんか。

ここでとても大切なことを聖書は我らに教えて下っています。もちろん、我らが正しく神様について、救い主イエスキリストについて、聖霊の神について正しく信じるためには、聖書の学び、聖書の正しい知識を得ることはとても大切ですが、**注意すべきことは、聞いて、学んで知っていることと信じることは全然違うことであることが分かります。厳密に言いますと、信じているから知っていることも含まれ可能ですが、知っている事は信じなくても全然可能なことではないでしょうか。**イエス様が実際お生まれになられた当時も、メシヤがお生まれになることと、どこでお生まれになるか場所すら宗教指導者や律法学者たちは頭で知って、分かっている、心から信じていなかったため、むしろ、その知識が彼の心を高慢にさせ、頑なにさせてしまったのです。心を開き、イエスキリストを受け入れ信じるより、頭で残る知識に留まってしまったので、とても残念ながら、御言葉通りに信じ、従う信仰の生き様は見えませんでした。

今日にも、多くの人々はイエスキリストが実際お生まれになられた方であることも、とても素晴らしい方であることも知っていますが、信じ、受け入れようとしません。知っていることは自分の頭で、理性で理解出来る、計算出来るので、別に信じる信仰は入りません。言い換えると、信じなくても、今までたくさん聞いたので、自分の頭や知識の領域で理解出来るのです。しかし、**聖書では信仰が先である事を教えて下さっています。神の御子イエスキリストを自分の救い主として受け入れなければ、神の救いは決して与えられません！**

聖書では明確にイエスキリストを自身の罪から赦し、解放させ、救うことが出来るお方として信じることによらなければ、他神の救いを得ることが出来ないことを聖書は明らかに強調しつつ、教えて下さっています。

ヨハネの福音書3章16節「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

ヨハネの福音書3章18節「御子信じる者はさばかれぬ。信じない者はすでにさばかれている。神のひとり子の御名を信じなかったからである。」

ヨハネの福音書5章24節「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っています。」

ヨハネの福音書7章38節「わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」

ローマ人への手紙1章16節「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。」

ローマ人への手紙3章22節「すなわち、イエス・キリストを信じる信仰によって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別もありません。」

ヨハネの手紙第一5章13節「神の御子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書いたのは、永遠のいのちを持っていることを、あなたがたに分かせるためです。」

なぜ信じる事が大切でしょうか。一の頭と知識の次元では聖書の初めのページである創世記1章1節すら、人の頭では到底理解出来ないものだからです。不思議なのは、神の御言葉として信仰をもって聖書を読むと、聖書の66冊全てが理解出来るなるものが神の御言葉、聖書であります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ですから、信仰は頭でとどまっては決していけません。頭の信仰になってしまうと、むしろ、イエス様の時代の宗教指導者たちのように、ますます高ぶりになりやすく、心が頑なになりかちで、人をさばく者になってしまうことを教訓として忘れてはいけません！

信仰は心から受け止めることであり、手足と行いにより、生き方とならなければなりません。

聖書にはいざ、メシヤがお生まれになる御誕に関しての聖書の知識はだれよりもたくさん持って教えていた宗教指導者たちでした。口には神を一番偉く信じているように自称自分達の信仰を褒めていながらも、心から遠く離れ、心から信じることはしなかったのではありませんか。そして、自分たちの頭の中で、聖書と違ったメシヤの形を作り上げ信じ込んでいました。つまり、力強い政治家であり、強い軍士力でローマ帝国をやぶり、イスラエルを独立してくれる力強い王様を待ち望んでいたわけでありました。ついに、旧約の聖書の預言の通り、御子イエスキリストが来られたのにも関わらず、自分達の頭と知識の基準と高慢が結局、来られた救い主イエスキリストを拒み、後には、十字架にまで殺すまで、罪を犯してしまった者に陥ってしまいました。

マタイの福音書23章25節「わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。あなたがたは、杯や皿の外側はきよめるが、その中は強奪（ごうよく）と放縦（ほうじゅう）で満ちている。」

実は、神の前で正直で謙遜な者こそ、人の頭や理性、知識ですべて理解出来ないことを認めます。自分の限界と弱さをよく認めるため、神の御言葉通り、神の赦しを、御救いを、自分の頭で、知識として理解しようとする自体が無理であることをよく認められます。イエスキリストは知ること、知的な満足やその素晴らしさに感動を受けたりすることでその人の人生はまったく変わりません。御子イエスキリストを受け入れ、信じることによって、神の真の力を体験することが出来、人生が変わり始めます！イエス様は“あなたの信仰があなたを救ったのだ。”、“あなたの信仰のとおりになれ”と言われました。我らの為に、神の御子、救い主なるイエスキリストがお生まれ、来られた理由は、全ての人々がメシヤを心に迎え入れ、信じて、神の救いを得させるためであることを、ともに覚えておきましょう。

### ③激しく迫害する人もいました(13節・16節)

イエス様がお生まれになるのを極力反対し、妨げようとする人も当時いました。当時イスラエルのヘロデ王でした。今日の本文で東方の博士らが遠い所から歩いてエルサレムにあるヘロデの宮殿に訪ねて来ました。2節に、ヘロデ王に“ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおられますか。”と問います。彼らはきっと神の子がお生まれになったのなら、宮廷ではないのかと思い、ためらわず、直接王宮にまで訪ねたと思いますが、ヘロデ王は初耳でした。むしろ、この地に王がお生まれになったことに彼はとても動揺し、戸惑っていました。なぜだったのでしょうか。自分が握っているこの政治の権力、王の立場がヘロデ王自分にとってはまるで神のようなものなのに、お生まれになる方に奪われてしまうのではないかと、町の人々が動揺してしまうのではないかと不安になってしまったからです。

ヘロデ王にとっては、人の上に立って、人を動かせるこの王座は、自身のすべてだったでしょう。もしかして、自分の王座が奪われるかも知れない事に恐れました。ヘロデ王はメシヤ、救い主という存在は、自分の大切な物を奪う存在のように間違って考え込んでいたでしょう。自分の権力と立場を守る事なら、人を殺しても構わないほど必死でした。ヘロデ王は人を愛されと神の救いと平和を与えるために来られた救い主のイエス様さえも、自分の敵だと思い込み神の御子さえも、殺そうとしたのです。

ついに、自分の王座を守る為に、ベツレヘム内の二歳以下の男の赤ちゃんを全部殺すようにと命じてしまいました(16節)。その時、夢で天使がヨセフに現われ、急いで身を引くようにと啓示されたので、みどり子イエスは災いをまぬかれる事になりました。イスラエルの有名な歴史家であったヨセプスによると、その後、このヘロデ王の疑いと不安はさらに強くなってしまい、自分の息子まで疑ってしまい息子までも殺し、七日目に腸がくさって苦しく死んでしまったと記録しています。自分が神のように握っていたものだけが全てかのように生きた人の結末はまさしく虚しく、哀れで、悲惨な人生の結末で閉じてしまったヘロデ王の生涯でした。

今日も、人類の歴史上ヘロデ王のように自分の権力、立場、既得権を守るためなら、周りがどうなっても構わず、どんな方法でも関係なく、それを必死に守ろうとする人々もいます。御子イエスキリストを迎えるために、みなさんにはまるで神のように、これこそ自分の全てかのように思い込んでいるものはないでしょうか。御子イエスキリストを迎え入れ、受け入れる為に、まるで神かのように自分の全てかのように握りしめている物を、主の前に手放す必要があるかも知れません。また、もちろん、一切恐れる必要はありませんが、イエスキリストの御もとに、近づけないように、必死に妨げ、霊的な戦いが来ることも予想しなければなりません。毎週礼拝の時間に行けないように、神に近づけないように、教会に来れないように色々妨げるものが今もいることも覚えましょう。しかし、心配や恐れる必要はありません。東方の博士らがやったように、ただ神の御言葉に従うのみで、守られ、また導かれると信じます！

#### ④救い主を心から迎え入れ、信じて従った人たちがいました(1・2・10-12節)

マタイの福音書2章を見ると東方の博士らは人類の平和の王の王であられるイエスの御誕を知らせる星の動きにしたがってエルサレムとその後ベツレヘムまで従って行って直接礼拝し、拝見することができました。彼らは天文学者であり、科学者だったのにもかかわらず、空と星を研究しながら、神の存在を知り信じていた人たちでした。救い主メシヤの到来を待ち望んでいたすばらしい人々でした。ベツレヘムに待ち望んでいたそのメシヤが生まれたのにもかかわらず、その素晴らしい出来事に関心もなく、ヘロデ王も、一生涯を旧約の預言書を研究していた祭司長たちや宗教指導者たちでさえも頭では知っていても信じなかったのです。自分の宿で神様の子がお生まれになったのにもかかわらず、宿屋(やどや)の主人さえも気付かなかったのです。

しかし、メシヤのご誕を気づき、ベツレヘムの町まで訪ねて来た東方の博士たちでした。ここで東方というのは当時ペルシアの地方だと推測する学者たちが多いです。今日で言うとイラン、イラクの近東のところですよ。そこからエルサレムまでは夜星が見えたら、また動いたため、ある学者は、ベツレヘムの町までおよそ2年ぐらいの旅だったとも言われていますが、とにかくはるかに遠い道だったのに間違いありません。しかし、彼らは山を越え、川を渡って、ただ、ひたすらこの地に来られたメシヤに一度だけでも良いから、直接拝見するため、はるばる遠くから来たのです。

我らの救い主イエスキリストを迎え入れ、信じ、御言葉の通りに信じ従って行う信仰を保って歩みましょう。

彼らは不思議な星を見た時その星がメシヤの誕生を示す聖書の預言(民数記 24:17「**私には彼が見える。しかし今のことではない。私は彼を見つめる。しかし近くのことではない。ヤコブから一つの星が進み出る。**」)の成就だと信じて御誕を拝見しました。我々も神様の御言葉をそのまま信じ、イエス・キリストがこの世の救い主であることを信じて、ご誕を迎えなければなりません。

そして東方の博士らはみどりごに拝見した後も御使いの指示に従いました。御使いが彼らにヘロデ王に会わないで、他の道で帰りなさい。と言われた時、博士らは最後まで神様のお言葉に従いました。時には、我らの願い、計画と違って、神の御言葉に純粋に信じ最後まで従う姿勢！イエスキリストを迎えながら、共に保って歩みましょう。

東方の博士らはメシヤの誕生を悟り、そのメシヤに礼拝するために遠いところであっても、どんな犠牲を払ってもベツレヘムにまで来て御子イエスキリストに礼拝をささげる事が彼らの人生の中で最も重要であったことが分かります。

ただ御言葉を読んで、知っているだけではなく、その御言葉を悟り、その通りにどんな犠牲を払っても従う決心をしましょう。そのように神の御言葉は信じ従って実践し、行う時に、神の約束された祝福をすべて自分に成就され、体験出来るようになる信じます。

そして、博士らは、みどりごに礼拝をささげながら「黄金、乳香、没薬」までもささげつつ、礼拝しました！

東方の博士らがイエスキリストに捧げた物には実は深い意味があります。

「黄金」はイエス様がこの地を治める「王」であることを象徴します。当時の黄金は王権を表わします。ですから東方の博士らはこの地に「人類を救う王」として来られたイエス様に王権を象徴する黄金を贈り物としてささげたのです。

そして「乳香」は祭司が神にいけにえを捧げる時に使われた物であって、イエス様が我々を罪のためにとりなしをして下さる「永遠の大祭司」であられることを象徴した物であり、「没薬」は遺体保存のために使われた物であって、人類の全ての罪を背負い、十字架の上でとげの冠をかぶり、両手と両足にくぎを打たれ、贖いとなって死なれることをすでに察して没薬をささげたのです。そういうわけですから、彼らがささげる贈り物にはとても意味深く、象徴的な意味があったのです。

いよいよ来週迎えるクリスマスの礼拝に、我らは何を救い主イエスキリストに捧げようとしていらっしゃいますか。

主が今日も我らに望んでおられるのは、お金や高価な物ではありません。あなたの救い主としてのふさわしい信仰です！まだ、救い主を受け入れてない方々には、迎え入れ、ふさわしく信じる信じる決断の心を喜ばれるでしょう。すでに受け入れ信じている者たちには、我らの心と身を神の栄光を現すものとして神に委ね、捧げるその献身を喜ばれ望んでおられるのではありませんか。

もともと神を信じていたイスラエルの民でもなかった博士ら彼らも、この世に来られたメシヤに直接拝見することができました。そして、お言葉に従ったヨセフとマリヤも、羊飼いたちも救い主に拝見することが許されました。普通の祝福ではありません。願わくは、来週 2022 年今年最後主日礼拝を、キリストの御誕を祝うクリスマス礼拝として迎えながら、インマヌエルの救い主イエス・キリストの御救いと恵み、その方にある真の平和がクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族みなさんの上に益々豊かにありますように、インマヌエルの主イエスキリストがみなさんお一人お一人といつも共におられますように主イエス・キリストの御名によって祝福します。アーメン！

